

## 安全データシート

改訂日: 2022年8月8日

## 1. 製品及び会社情報

製品名  
推奨用途  
会社名  
住所  
電話番号

2-プロパノール  
試験研究用  
米山薬品工業株式会社  
大阪市中央区道修町2丁目3番11号  
(06)6231-3555(大阪・本社)  
(03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田)  
(052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)  
AB0171

整理番号

## 2. 危険有害性の要約

GHS分類  
物理化学的危険性  
健康に対する有害性

引火性液体: 区分2  
急性毒性(経口): 区分5(JIS区分外)  
急性毒性(経皮): 区分5(JIS区分外)  
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性: 区分2A  
生殖毒性: 区分2  
特定標的臓器・全身毒性: 区分1(中枢神経系/腎臓/全身毒性)  
(単回ばく露) 区分3(気道刺激性)  
特定標的臓器・全身毒性: 区分2(血管/肝臓/脾臓)  
(反復ばく露)  
誤えん有害性: 区分2

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語  
危険有害性情報

危険  
引火性の高い液体及び蒸気  
飲み込むと有害のおそれ(経口)  
皮膚に接触すると有害のおそれ(経皮)  
強い眼刺激  
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い  
中枢神経系、腎臓、全身毒性の障害  
呼吸器への刺激のおそれ  
長期又は反復ばく露による血管、肝臓、脾臓の障害のおそれ  
飲み込み、気道に侵入すると有害のおそれ

注意書き

【安全対策】  
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。-禁煙  
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。静電気放電や  
火花による引火を防止すること。  
個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。  
保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。  
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。  
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
取扱い後はよく手を洗うこと。  
容器を密閉しておくこと。  
【救急処置】  
火災の場合には適切な消火方法をとること。  
吸入した場合: 空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息さ  
せること。  
飲み込んだ場合: 無理して吐かせないこと。  
眼に入った場合: 水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易  
に外せる場合には外して洗うこと。  
皮膚を流水、シャワーで洗うこと。  
皮膚(又は毛髪)に付着した場合: 直ちに、すべての汚染された衣類を脱  
ぐこと、取り除くこと。  
ばく露又はその懸念がある場合: 医師の診断、手当てを受けること。  
飲み込んだ場合: 直ちに医師の診断、手当てを受けること。  
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。  
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。  
【保管】  
容器を密閉して涼しく換気の良いところで施錠して保管すること。  
【廃棄】  
内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者  
に業務委託すること。

## 3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別  
化学名又は一般名  
別名  
化学式

化学物質  
2-プロパノール  
イソプロピルアルコール  
(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>CHOH

化学物質を特定できる一般的な番号	CAS RN: 67-63-0
濃度又は濃度範囲	2-プロパノール 99%以上
官報公示整理番号(化審法/安衛法)	(2)-207
その他	HSコード: 2905.12
4. 応急措置	
吸入した場合	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	皮膚を速やかに洗浄すること。 医師の手当、診断を受けること。
眼に入った場合	汚染された衣類を脱ぎ、再使用する前に洗濯すること。 水で数分間、注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当を受けること。
飲み込んだ場合	医師の手当、診断を受けること。 口をすすぐこと。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状	高濃度のばく露では、目、鼻、のどに刺激を引き起こす。 眠気、頭痛、協調運動不能を引き起こす。 皮膚への長期のばく露では、脱脂性があり、乾燥、ひび、皮膚炎を引き起こす。 経口摂取: 腹痛、息切れ、嘔吐、痙攣、意識喪失、咳、めまい、頭痛、吐き気、脱力感、視力障害。 眼、皮膚、気道を刺激する。 意識を喪失することがある。 失明することがあり、場合によっては死に至る。 持続性あるいは反復性の頭痛、視力障害を生じることがある。
応急処置をするものの保護	火気に注意する。有機溶剤用の防毒マスクがあればそれを着用する。
5. 火災時の措置	
適切な消火剤	小火災: 二酸化炭素、粉末消火剤、散水、耐アルコール性泡消火剤 大火災: 散水、噴霧水、耐アルコール性泡消火剤
使ってはならない消火剤	棒状放水
特有の危険有害性	加熱により容器が爆発するおそれがある。 極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。 火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。 引火性の高い液体及び蒸気。
特有の消火方法	散水によって逆に火災が広がるおそれがある場合には、上記に示す消火剤のうち、散水以外の適切な消火剤を利用すること。 引火点が極めて低い: 散水以外の消火剤で消火の効果がない大きな火災の場合には散水する。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。
消火を行う者の保護	
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。 漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。 適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。 風上に留まる。 低地から離れる。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項	河川等に排出され、環境へ影響を及ぼさないように注意する。 環境中に放出してはならない。
封じ込め及び浄化方法・機材	危険でなければ漏れを止める。 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。 蒸気抑制泡は蒸発濃度を低下させるために用いる。
二次災害の防止策	すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策(局所排気、全体排気)	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
安全取扱い注意事項	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。

接触回避 衛生対策	眼に入れないこと。 接触、吸入又は飲み込まないこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 『10. 安定性及び反応性』を参照。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。
保管 安全な保管条件	保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。 保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設けること。 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。-禁煙。 冷所、換気の良い場所で保管すること。 酸化剤から離して保管する。 容器は直射日光や火気を避けること。 容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。 施錠して保管すること。 ガラス、スチール
安全な包装機材	
8. 暴露防止及び保護措置	
許容濃度 管理濃度 日本産業衛生学会 ACGIH	200ppm 最大許容濃度 400ppm 980mg/m <sup>3</sup> TLV-TWA 200ppm A4 TLV-STEL 400ppm A4
設備対策	製造業者が指定する防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する 空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行なうこと。 高熱工程でミストが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度以下に保つために換気装置を設置する。
保護具 呼吸器の保護具 手の保護具 目の保護具 皮膚及び身体の保護具	適切な局所排気または呼吸用保護具を着用すること。 適切な保護手袋を着用すること。 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型) 適切な顔面用の保護具を着用すること。
9. 物理的及び化学的性質	
物理状態 色 臭い 融点/凝固点 沸点又は初留点及び沸点範囲 燃焼性 爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界 引火点 自然発火温度 分解温度 pH 動粘性率(粘度) 溶解度 n-オクタノール/水分分配係数 蒸気圧 密度及び/又は相対密度 相対ガス密度 蒸発速度	液体 無色 刺激臭 -90°C(融点/凝固点) 83°C(沸点又は初留点及び沸点範囲) 該当情報なし。 下限;2vol%、上限;12vol% 11.7°C(密閉式) 456°C 該当情報なし。 該当情報なし。 2.37mPa・s(20°C) 1000g/L(水)、アルコール、エーテル、クロロホルムに可溶 log Pow = 0.05 4.4kPa(20°C) 0.785(20°C) 2.1(空気 = 1) 該当情報なし。
10. 安定性及び反応性	
安定性 危険有害反応可能性  避けるべき条件 混触危険物質 危険有害な分解生成物	通常の条件においては、安定である。 強酸化剤と反応し、火災や爆発の危険性をもたらす。 高温においてアルミニウムを腐食する。 熱、火花、裸火、高温のもののような着火源との接近 強酸化剤、強アルカリ 火災時の燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素などの有害ガスが発生す
11. 有害性情報	
急性毒性	[経口]ラットのLD50の複数のデータ (1870mg/kg,4710mg/kg,5280mg/kg,5480mg/kg,5500mg/kg)から統計計算した数値3437mg/kgより区分5とした。(JISでは区分外) [経皮]ウサギのLD50値、4059mg/kgより区分5とした。(JISでは区分外) [吸入-蒸気]ラットのLC50値 72.6mg/L,72.865mg/Lより区分外とした。

皮膚腐食性・刺激性	ウサギ皮膚刺激性試験では、刺激性なし又は軽度の刺激性の報告があるが、ヒトでのボランティア及びアルコール中毒患者の治療のため皮膚適用した試験では刺激性を示さない。(区分外)
眼に対する重篤な損傷・刺激性	ウサギでの眼刺激性試験では、軽度から重度の刺激性の報告があるとの記述があるが、重篤な損傷性は記載されていない。強い眼刺激(区分2A)
呼吸器感受性又は皮膚感受性	[呼吸器]データなし。(分類できない) [皮膚]モルモットでのビューラー法による皮膚感受性試験では陰性であった。皮膚炎発症例で2-propanolのパッチテスト陽性例には、低分子の1級又は2級アルコール、プロピレンオキシドにも陽性を示しており、2-プロパノールが原因物質か否か明確でない。(分類できない)
生殖細胞変異原性	in vivo でのマウス骨髄細胞を用いた小核試験で陰性である。(区分外)
発がん性	IARC; グループ3(人に対する発がん性は分類できない)、ACGIH; A4(発がん性物質として分類できない物質)(区分外)
生殖毒性	ラットでの飲水投与による2世代繁殖試験では、繁殖能及び出生子の発育に影響なかった。一方、ラットでの発育毒性・催奇形性試験では、催奇形性はなかったが、親動物に体重増加の低下、麻酔作用等の毒性を示した用量で、妊娠率の低下、吸収胚の増加、胎児死亡の増加等の生殖毒性が認められた。生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い(区分2)
特定標的臓器・全身毒性 -単回暴露	ラットでの吸入ばく露による活動性の低下があるとの記述、及びヒトでの経口摂取による急性中毒では消火管への刺激性、血圧、体温等の低下、中枢神経症状、腎障害が認められており、標的臓器は中枢神経系、腎臓及び全身毒性とした。ヒトで鼻、喉への刺激性が認められており、気道刺激性がある。中枢神経系、腎臓、全身毒性の障害(区分1)、呼吸器への刺激のおそれ(区分3)
特定標的臓器・全身毒性 -反復暴露	ラットでの86日間又は4ヵ月間吸入ばく露試験で、血管、肝臓、脾臓に影響が認められたとの記述から、標的臓器は血管、肝臓、脾臓であるとした。長期又は反復ばく露による血管、肝臓、脾臓の障害のおそれ(区分2)
誤えん有害性	ヒトに関する情報はないが、ラットでの気管内投与により、24時間以内に心肺停止による死亡が認められており、かつ、動粘性率は概略1.6前後であることから、誤えん有害性があるとした。飲み込み、気道に侵入すると有害のおそれ(区分2)
12. 環境影響情報	
生態毒性	短期: (急性) 魚類 ヒメダカ LC50>100mg/L/96H 長期: (慢性) 難水溶性でなく(水溶解度=1.00×10 <sup>6</sup> mg/L)、急性毒性が低いことから、区分外とした。 該当情報なし。 該当情報なし。 該当情報なし。 当該物質はモンリオール議定書の附属書に列記されていない。
残留性・分解性	
生態蓄積性	
土壌中の移動性	
オゾン層への有害性	
13. 廃棄上の注意	
化学品、汚染容器及び包装の安全でかつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報	産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。
14. 輸送上の注意	
国連番号	1219
品名(国連輸送名)	イソプロパノール
国連分類	クラス3
容器等級	II
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実にを行う。
国内規制がある場合の規制情報	
陸上輸送	消防法の規定に従う。
海上輸送	船舶安全法の規定に従う。
航空輸送	航空法の規定に従う。
応急措置指針番号	129
15. 適用法令	
化学物質管理促進法(PRTR法)	指定化学物質に該当しない。
消防法	第4類引火性液体アルコール類
毒物及び劇物取締法	毒物及び劇物に該当しない。
労働安全衛生法	名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物[イソプロピルアルコール][施行令別表9] 危険性又は有害性を調査すべき物[イソプロピルアルコール] 第2種有機溶剤等 危険物・引火性の物
船舶安全法	引火性液体類
航空法	引火性液体
16. その他の情報	
参考文献	職場の安全サイト(厚労省HP) 16615の化学物質(化学工業日報社)

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。